

Nihongo Network News

2002.11.8発行

No. 39

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

TNVNは来年10周年を 迎えるにあたり 新しい改革を考えています。

10th

第一弾として新しい情報交換の場を設けました。
会員皆様のご活用を大いに期待しています。

●TNVNは来年10周年を迎えます。

この10年、日本語ボランティアの活動に関わる方々の絶え間なく力強い努力と協力で、ボランティアによる外国人への日本語学習支援は地域社会で欠かせない活動となっています。

この中でTNVNもこの環境の変化に応じた対応が必要になります。

先のニュースレターNo.37で「情報社会の中での対応が必要になりました」を取り上げました。

これを機に新たな改革を考えています

ホームページとE-mail が大きな情報提供の場となっている状況から会員への情報提供や会員相互間の情報交換の場をこれまでの紙面からWEB上での対応に重点を移行し、より多くの方々に活用願いたいと考えています。

またTNVNで3回発行し、広く活用いただき好評の「ボランティア日本語教室ガイド」をより一層充実した最新

版の発行を計画し、このデータを併せホームページ上に掲載します。

メールによる情報交換の場を設けます

これまで、東京日本語ボランティア・ネットワークから会員の皆さんへの情報提供は、隔月に郵送されるニュースレターを通して行っています。ニュースレターは個人会員には直接お届けしていますが、正会員・賛助会員は団体宛に届くため、その中のメンバーには情報が必ずしも伝わっていなかったのが現状です。

ホームページから情報伝達も行っていますが、決して十分なものではありません。また情報交換会を開催しますがいろいろな事情で参加される方が限られています。

一方、日本語ボランティア活動の進展とともに、各地で色々な講演会、研修会、催し物など、メンバーが団体の枠を超え、個人として参加できる集ま

りが増えてきました。それらの情報を共有するためにも、ネットワークとしての機動性が必要となってきました。

そこで、「活動する一人一人のためのネットワーク」を目指す改革の第一弾として、メーリングリストを作り、会員相互の情報交換の場とすることにしました。具体的には、情報を共有したいと思っていられる会員(個人会員及び登録団体のメンバー・人数制限なし)の方が参加する新しいメーリングリストを作り、「個人」の積極的な関与による、多面的な日本語ボランティア活動をめざしていくことになりました。

メーリングリストへの参加については個々の会員に別途ご案内しますので宜しくお願いします。

今後引き続き

ホームページの充実と「日本語ボランティア教室ガイド」の最新版発行を計画しています。さらなる企画をご期待下さい。

日本語ボランティア活動に関わる皆さんや関心をもたれる方々のご協力をお願いします。





私はいまオーストラリアのシドニーでこの原稿を書いています。まだシドニーに来て2か月ですが、新しい土地で暮らす刺激もある反面、さまざまな苦勞もありました。

シドニーには移民の1世、2世が非常に多く、言語も多様で、英語が母語でない人も多いため、どんな英語を話しても自然に対応してもらえます。しかし、英語が公用語であることははっきりしており、ほとんどの公的な手続きに英語が必要です。

土地の状況や習慣に通じていないために、そしてそれを理解するための英語が不十分なために苦勞することはしばしばです。家探しに始まり、子どもの小学校探しと入学手続き、予防接種、各種行事の案内や学校からのお手紙を読むこと、図書館のカードの手続き、インターネットの利用、車をどこで借りたらよいか、バスカードの使い方、欲しいものがどこなら安く買えるかなど、細かいこと一つ一つを解決するための情報集めと手続きの多くに英語が必要です。ちょっとしたことが分からないためにイライラすることもありました。

このような問題とその解決について振り返るために、シドニーに来てから生じた問題や疑問をどう解決したかを、記録にとってみました。その結果、いくつかのことに気づきました。

第一に、ニューカマー（ある土地に新しく来た人）は「限られた短い時間」に多くの情報を集めて手続きや買い物などをしなければならないということです。実は言語的・文化的なマイノリティ（少数者）が利用できる情報のリソース（問題解決や学習に役に立つヒト、モノ、組織など）はいろいろあるのですが、遠かったり、面倒で時間がかかりそうだと、利用しません。一つ一つのことを片づけるのに時間がかかるので、早くすませたいのです。

第二に、親切な人のところ（店、役所、各種のサービス部門、知り合いなど）へは行きやす

いという当たり前の事実です。「笑顔のコミュニケーション」は非常に重要です。笑顔で落ち着いて対応してくれる人は話も聞き取りやすいですし、こちらが英語でうまく表現できなくても焦らずに話を聞いてもらえるので、早く問題が解決できるという期待がもてます。対応が不親切だと、自分が間違っているのではないかという不安を感じます。マイノリティには何がその土地の基準かを判断する材料が乏しく、それがコミュニケーションの不安につながりますし、それを確かめることにも手間や時間がかかるので、対応が不親切だと時間がかかるとも感じます。

第三に、母語による情報（私の場合は日本語）には質的に他とは違う情報が含まれているということです。例えば、子どもの教育に関して日本の学校との違いを知りたかったときに役立ったのは日本から来た家族の情報でした。マイノリティの視点による情報や、味噌がどこで買えるかといった母文化の保持に関わる情報が欲しいことがあります。

以上を総合すると、私の場合、毎日の生活で一番助けられているのは、同居しているホストファミリーと電子辞書のように思います。インターネット上の情報に助けられることも多いです。いずれも、心理的負担を感じないで、いつでも手軽に聞けるという点が共通です。その他には大学の日本語科の先生方の情報、所属学科（心理学科）の大学院生、インターナショナル・オフィスの職員、などに助けられています。

これらのことを、立場を入れ替えて、日本で言語的マイノリティの支援をする場合に当てはめてみると、言語の他に生活の情報を加えること、支援の場を地理的にも心理的にもアクセスしやすいところに作ること（マンツーマンのサポートシステムも有効）、笑顔で落ち着いて話を聞ける雰囲気を作ること、必要に応じて母語・母文化を同じくする人々のネットワークを作る手伝いをするなど、などが効果的な支援になると言えるでしょう。どれもボランティアの間でよく言われることですが、それを私はいま、逆の立場で改めて確認しています。

ご存知ですか？

赤穂義士

本懐成就して300年

「義士会」が冬の季語になっているように、赤穂義士は日本人にとって馴染み深いものです。「忠臣蔵」と聞くと、今年も終わりに近づいたと思うでしょう。

毎年この季節になると、赤穂義士の故郷である兵庫県赤穂市や、義士が祀られている東京都港区泉岳寺などで、さまざまなイベントが行われます。また、敵役とされている吉良上野介の屋敷のあった墨田区本所でも吉良祭が催されます。

元禄14年（1701）3月14日、江戸城本丸松の廊下で、朝廷勅使接待役の浅野内匠頭長矩（播磨国赤穂藩、今の兵庫県赤穂市）が突如小刀を抜いて吉良上野介義央に斬りつける刃傷事件が起こりました。居合わせた人が浅野内匠頭を抱きとめたため、吉良上野介は傷を負いながらも命は助かりました。この事件の原因には諸説があるようですが、浅野内匠頭は將軍綱吉の逆鱗に触れ、ただちに、切腹の上、領地没収という厳しい処分を受けました。一方、

吉良上野介はなんのお咎めもなく片手落ちの裁定となったため、浅野家家老の大石内蔵助以下四十七士が、翌1702年12月14日に本所の吉良邸に討ち入り、主君の無念を晴らしました。

当時の日本は、江戸時代中期で元禄時代と呼ばれ、

徳川五代將軍綱吉が治めていました。

綱吉は「生類憐れみの令」を発令して庶民を苦しめたことでも有名ですが、この時代は自由で活気のある町人文化が栄えました。

刃傷事件の47年後、1748年8月に大

坂道頓堀の竹本座で人形浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」が初演されました。すぐさま歌舞伎にも取り入れられ、江戸・京・大坂をはじめ全国津々浦々で上演され、今日に至っています。

今年も、十月に東京歌舞伎座で「仮名手本忠臣蔵」が上演されました。

また、この「忠臣蔵」から派生した芸術は、邦楽・講談・落語・浪曲などの演芸や、劇・舞踊・バレエ・オペラなどの舞台芸術、小説・和歌・川柳・俳句などの文芸、絵馬・版画（浮世絵）・折り紙・彫刻などの美術工芸というようにほとんどの分野に及んでいます。

また、書物・映画・ラジオ・テレビでも取り上げられ、「忠臣蔵文化」を形成しています。



◎問合せ先

赤穂市役所……………観光商工課（義士祭）TEL／0791-43-6839

泉岳寺……………TEL／03-3441-5560

墨田区文化観光協会（吉良祭・元禄市）……………TEL／03-5608-6951

房総日本語ボランティアネットワーク

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学教育学部社会教育研究室内
 TEL/043-290-2568 FAX/043-290-2568
<http://cue181.e.chiba-u.ac.jp/sikiji.html>

8月8日、酷暑の中、房総日本語ボランティアネットワークを訪ねました。

同ネットワークの事務局は千葉大学教育学部の長澤研究室にあります。西千葉の駅前に千葉大学の門はありますが、長澤研究室のある建物までは10分。道を隔てて付属小学校があります。さて、なぜ「日本語ボランティアネットワーク」の事務局が大学にあるのでしょうか。それは、このネットワークが学生たちの調査をきっかけにできたからなのです。

長澤先生の専門は社会教育つまり学校以外の教育です。国際識字年の1990年といえば、ニューカマーの人たち向けの日本語教室が各地にできはじめた頃。東京学芸大学の識字マップに刺激された学生たちが卒論のテーマとして千葉県の日本語教育の調査を始めたのを

契機に、1994年、房総の識字マップ作成委員会ができました。「識字」の観点から、日本語学習が可能な場所を網羅し、民間の日本語学校、国際交流協会、公民館、教会、福祉関係、ボランティア教室などをボランティアの手でリストアップしました。当時54教室ありました。お世話になった皆さんにご報告をと同年7月に報告会を開いたところ、ネットワークを作ろうということになり、事務局は長澤先生の研究室に、ということになりました。このように日本語教育ではなく社会教育の立場からネットワークができたので、房総日本語ボランティアネットワークでは日本語学習は「地域の外国人の学ぶ権利、人権としての学習権の保障」の観点から捉えられ、それに関連して、地域に暮らす外国人の問題を幅広い角度から考えていく姿勢が基本となっていま

BULLETIN BOARD

2002年度／在住外国人のための 専門家相談会

都内9カ所リレー専門家相談会

6月30日を皮切りに、都内の国際交流協会を会場に、弁護士や医者などの専門家、およびNPOの相談窓口のスタッフと市民ボランティアの通訳（全20言語/約200名）が協力しあって多言語対応による無料専門家相談会を9カ所でリレー開催します。

既に5カ所で実施済み、11月から更に4カ所で開きます（日程は下記参照）

これまで所属する団体だけで活動していた専門家や語学ボランティアを「都内全域の財産」として共有し、相互に協力することにより問題解決を図れる方途を探ろうと「都内相談ネットワーク」づくりを進めてきました。そのネットワークでの初めての試みとして行うのが「多言語による多分野に

わたる問題解決型の相談会」としての都内全域リレー相談会の開催です。外国人支援団体の皆様また近隣の外国人の方々に広く周知いただければ幸いです。

《全ての会場で》

- ◎ビザ、国際結婚・離婚、仕事のトラブルなどの法律相談は、弁護士が対応します。
- ◎当日は、英語、中国語、ハングルの通訳がいます。その他の言語はお問合せください。
- ◎予約不要／無料／秘密厳守

[A会場]

- ◆月日／11月23日（土祝）
- ◆受付時間／14:00～16:00
- ◆場所／杉並区立産業商工会館（展示室）
- ◆問合わせ先／杉並区文化・交流協会
TEL／03-5378-8833
- ◆特別企画／住まいの相談・消費生活相談・社会保険労働相談

[B会場]

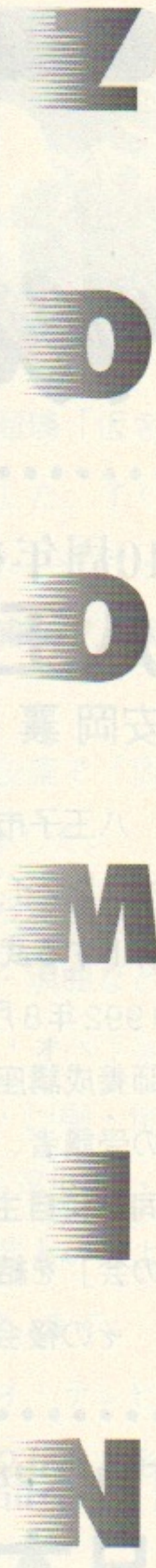
- ◆月日／11月30日（土）
- ◆受付時間／13:00～16:00
- ◆場所／町田市民フォーラム4F
- ◆問合わせ先／町田国際協会
TEL／042-722-4260
- ◆特別企画／法律相談

[C会場]

- ◆月日／12月7日（土）
- ◆受付時間／14:00～18:00
- ◆場所／武蔵野スイング10F
- ◆問合わせ先／武蔵野市国際交流協会
TEL／0422-36-4511
- ◆特別企画／総合相談会／20言語の通訳があり、どんな相談にも対応できます。
法律相談・労働相談・医療相談・歯科検診

[D会場]

- ◆月日／1月26日（日）
- ◆受付時間／13:00～15:00
- ◆場所／東京国際フォーラム



房総日本語ボランティアネットワーク 2002.1.26
「日本語を母語としない子どもの進路と学習支援」於：千葉大学けやき会館



『あなたの町の日本語教室 第2版』2000発行
県内120の日本語教室の紹介、など。

す。日本語の教育に関連したことは国際交流協会主催の日本語ボランティア養成講座でやっているの、このネットワークでは、「識字」とはどういうことなのか(注)、を大切に活動しています。

では、房総日本語ボランティアネットワークの活動についてご紹介しましょう。

●目的

地域に住む外国人と日本人が、言葉をとおしてお互いに協力し合い、理解を深めることを目的とする

●会員・会費

約100名 年会費1500円

●定例会

隔月1回 千葉大学教育学部にて

●通信

隔月1回 定例会の内容や地域活動情報を提供

●これまでの刊行物

- 『あなたの町の日本語教室』1996発行
県内112の日本語教室の紹介
- 『在住外国人の日本語学習を考える集い』開催 1999
国立国語研究所日本語教育相互研修ネットワーク地域研修会

●これからの活動

2002年度は、日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンスに取り組んでいます。

(注)「識字」っていったい何? (『あなたの町の日本語教室1996 千葉県の現状と課題』1998 94ページより)

識字とは英語でliteracyと言います。「日本語教育」が日本語を教えるテクニックのように聞こえるのに対して、「識字教育」はその言語教育を通して、生活改善や差別解消を目的にしています。1990年は、国際連合が定めた「国際識字年」の年でした。私たちは現在の日本語教育への警鐘を込めて、あえてこの「識字」を使っています。

(S.F)

ガラス棟G502会議室

◆問合わせ先/東京国際交流財団
TEL/ 03-5221-9023

◆特別企画/総合相談会/多言語通訳と多様な専門家による相談会。
法律相談・医療相談・教育相談・労働相談

●主催/財団法人 東京国際交流財団
TEL/ 03-5221-9023
FAX/ 03-5221-9011

●共催/東京国際交流団体連絡会議

●運営/東京国際交流団体連絡会議・相談事業部会

●助成/財団法人 自治体国際化協会

カレンダーの売上げは、貧困や災害のために基礎教育を受けることのできない中国の子供たちへの奨学金に当てられます。

カレンダーは1部1,500円です。

ちなみに2部お買い上げいただくと、一人の子供が1年間小学校に通えます。

◆申込み方法/FAX: 03-3473-5097または、Eメール (Hayashikawa@aol.com) で、注文部数と送付先、お電話番号をお知らせ下さい。

折り返しカレンダーと代金振込み用紙をお送りします。

参加者募集!!

「ひろげませんか! 教え方・学び方〜日本語共育スキルアップ講習会」

◆日時/11月16日(土) 10:00~12:00

◆場所/JR中央線「武蔵境」北口駅前

スイングビル2階・ホール

◆講師/伊東祐郎氏
(東京外国語大学留学生日本語教育センター教授)

伊東先生はご専門の応用言語学、外国語習得論で今注目を浴びておられる新進気鋭の専門家です。さらに地域日本語教育や子供の日本語習得にも深い理解を持たれ実践にも参加されています。今回は、地域日本語共育活動に参加されている方々に向けて、日本語の専門家として、さまざまな視点から語っていただきます。講演終了後、参加者の方々と自由に意見交換を行いたいと思います。お気軽にご参加ください。

- ◆参加費/無料
- ◆主催/TAMA日本語共育ネットワーク (MIAプラザ参加行事)
- ◆申込み/会場に直接おいでください。

「2003年ユネスコ中国世界遺産カレンダー」販売のお知らせ

ユネスコ北京事務所は、中国の世界遺産の美しい写真を収めた卓上用カレンダー(14.5×25)を販売しています。

Nice to Meet You

10周年を迎える「八王子にほんごの会」 八王子にほんごの会

安岡 襄 (八王子市)

八王子市は、日本語を学ぶ外国人を、ボランティアがマン・ツー・マンでサポートする武蔵野市の方式を取り入れて、1992年8月「ボランティアにほんご講師養成講座」を開講しました。この講座の受講者、40名は3ヶ月の講座終了と同時に自主グループ「八王子にほんごの会」を結成して活動を開始しました。その後会員も学習者も順次増加し、

2002年4月の定期総会時には会員146名、学習者130名に達し、市内8箇所の市の施設や小学校で「寺子屋」と呼ぶ教室を開いています。

学習者の内訳は市内の食品関係の工場で働く日系南米人、英会話学校の教師、様々な形で来日した中国人がメインで、その他米国、ヨーロッパ、アジア各

国など、世界中の地域に及んでいます。今年、当会発足10周年でその記念事業にプロジェクトチームを作って取り組んでいます。この事業に関しては、財団法人東京国際交流財団からの助成をいただくことになりました。市民にも呼びかけるセミナー開催と冊子発行の予定です。

そのほか会の主要行事は、1月に行われる会員学習者以外にも、広く参加を呼びかける「新春のつどい」と秋に行われる会主催と市主催のスピーチ大会です。9月は新会員が8名、新学習者が24名入会し、人気上昇中の会です。

2002年4月の定期総会時には会員146名、学習者130名に達し、市内8箇所の市の施設や小学校で「寺子屋」と呼ぶ教室を開いています。



「日本語学習会・さくら会」について 日本語学習会・さくら会

代表 山崎 瑛子 (港区)



外国人に日本語を教えるボランティアグループ「日本語学習会・さくら会」は1983年に発足しました。当時は日本在住外国人が増え始めた頃で、特に在住外国人の多い港区でも港区女性センター（現港区男女参画センター）主催の短期日本語講座が開かれました。その折、アシスタントとして参加した主婦たちが講座終了後、自主グループ「さくら会」を立ち上げたのが始まりで

した。発足当初は教科書や教材も少なく、日本人会員が簡単な教科書や

教材やプリントなどを手作りしていましたが、その後の日本語学習ブームでこの分野は驚くほど充実し、まさに隔世の感があります。

現在、授業はクラス形式で、初級1・2、中級1・2、上級の5クラスがあり、教室はJR田町駅近くの港区公共施設を使わせていただいています。

教える側の日本人会員は現在16人、一週間延べ7クラスを担当しています。

外国人の中には東京在住中ずっとさくら会に在籍し、初級から中級、上級と勉強を続ける方もいて、ご帰国後も交流が続いています。

日頃の活動はクラスごとの日本語学

習が主ですが、年2回、会員全員が参加する親睦会を行います。一つは初夏の見学を兼ねた遠足。担当者が東京及びその周辺からおもしろそうな場所を選んで計画を練ります。ちなみに今年は皇居内苑でした。もう一つは12月に行う「学習発表会」。こちらは全員一堂に会して、日頃研鑽して来た日本語でのスピーチ、お国の歌や踊り、民族衣装でのファッションショー、着物の着付けなど大いに盛りあがります。なかでも全員が輪になって踊る「東京音頭」は毎年定番の人気イベントです。

「さくら会」は毎年10月から新年度が始まります。今年も夏から初秋にかけて募集したところ、様々な国籍の多くの外国人が入会され、新クラスの授業が始まりました。日本人会員は会の運営と日本語の授業という両輪をこなしながらまた気持ちを新に張り切っています。

ほど楽しくて役立つことがあるのは、とても珍しいことだと思います。

感謝の気持ちでいっぱいです。



学習者の声

北区のボランティア日本語教室に来て9ヶ月になります。今でも来ると、毎回ビックリすることがいっぱいあります。

だって先生達は、週五回も私たち外国人のために文化センターに来ているんですよ！いつも笑顔で一生懸命に日本語を教えてくださいます。日常生活のことでも、仕事についても、何でも自由に聞けるし、いっぱい勉強することが出来ます。

レッスンは午前も午後も夜もみんな2時間続けてします。一回100円だけど、これ

ビックリするぐらいが
いっぱい

クリロヴィッチエレナ／ベラルーシ＝旧ロシア
北区・地球クラブ

学習者の声

こんにちは！私は北区の日本語ボランティアのクラスで勉強しているミュリエルです。

ボランティアの人といっしょに日本語を勉強して一年になります。

外国人はたくさんいます。ですからとても楽しいです！

会話で、または本でボランティアが日本語を教えてくださいます。

挨拶から文化と歴史まで話します。安いのにたくさん勉強できます。

また、外国人のためにボランティアは少し英語ができます。とても便利です。

このほかに、日本の文化もなっています。毎週水曜日の夜に、太鼓の稽古があります。

日本人と音楽と“日本のエスプリ”を同じくする。

その時は日本語で話せるので素晴らしい機会ですね！

時々生け花を” Oharaりゅう”の先生と勉強します。心と体が休めます。

日本の文化はとてもおもしろいと思います。

日本の文化は
とてもおもしろい

レイモンドミュリエル／フランス
北区・日本語グループかたつむり

ボランティアの声

代表 宮田百合子
江東区・東大島日本語教室

学ぶのは日本語だけを
公的支援を

江東区東大島日本語教室は、約10年前、日本語教授法コースの実習に参加した学習者に、強く後押しされて、自然発生的に誕生した。「いつでも、だれでも」学習者も、ボランティアも気軽に参加できる日本語クラスである。

とっぴりと日の暮れた7時から8時半、親子連れやビジネスマン等とボランティアたちが、熱気あふれる一時を過ごす。「国際交流」をイメージしていた日本の方々も、学習者の真剣に学ぶ姿勢に、いつしか引き込まれていく。ここは、確かに「学ぶ場」であり、「交流」は、そこから生まれる。

未だ、日本語がうまく操れず、学校や地域社会の中で、孤立している人々が、多いと聞く。日本語学校は、ほぼ就学生対象であり、学費、時間帯から見て、地域定住

の学習者には合わない。これらの人々のために、地域日本語クラスが存在するのだが、大半のクラスの悩みは、毎月の教室確保、教材などの保管場所がないことなどである。しかし、区の扱いは、他の自主グループと変わらない。さらに、公的な支援なしでは、週一回の開設が限度である。

住民が、創造性のある自主活動をするという点では、両者に差異はないのだが、日本語教育支援を必要とする地域住民に対して開かれている日本語クラスには、特別枠で常設教室を設けるなど、異なった対応が望まれる。

今後、TNVNを通して、これらの問題を幅広く取り上げ、連携して地域日本語教育の充実、支援体制作りなどを進めていくことが急務、と考えている。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックスNo.4

TEL : 03-3235-1171

(呼び出し:金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050

URL : <http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/>

MAIL ID : tnvn@t3.rim.or.jp

●事務局は金曜日に活動しています。

◆日時:毎週金曜日

第1,第3,第5金曜日 午後2時~4時

第2,第4金曜日 午後2時~7時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター

●会費の納入をお願いします。

TNVNの活動にご協力・支援を有り難うございます。平成14年度の会費納入ありがとうございます。会員各位からの会費はTNVNの活動に欠かせない財源です。まだ払い込みの済んでいない会員各位には納入をお願いします。

●日本語ボランティア相談窓口

事務局では日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にベテランスタッフがお待ちしております。電話またはE-mailでご確認の上、お気軽におこしください。

●日本語ボランティア入門講習会

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。全4回(4ヶ月)

◆テーマ

(11月)日本語ボランティアとは?

(12月)日本語再発見

(1月)学習者はどんな人たちか?

(2月)日本語学習をどのように支援しているか?

◆日時

11月8日(金) 午後2:00~4:00

11月22日(金) 午後6:00~8:00

12月13日(金) 午後2:00~4:00

12月27日(金) 午後6:00~8:00

1月10日(金) 午後2:00~4:00

1月24日(金) 午後6:00~8:00

2月14日(金) 午後2:00~4:00

2月28日(金) 午後6:00~8:00

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター
飯田橋セントラルプラザ10階会議室
(JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分)

◆参加費/1回600円(TNVN会員は300円)

◆参加申込み/直接、会場へおこしください。

●TNVNへの入会を希望する方は

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円 切手同封)
<入会手続>申込用紙に必要事項を記入し、TNVN事務局に郵送またはFAXでお送り下さい。E-mailでも申し込めます。あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ参加できます。

◆会費/正会員:年会費3,000円

協力会員:年会費2,000円

賛助会員:年会費1口1万円

◆会費払込み先

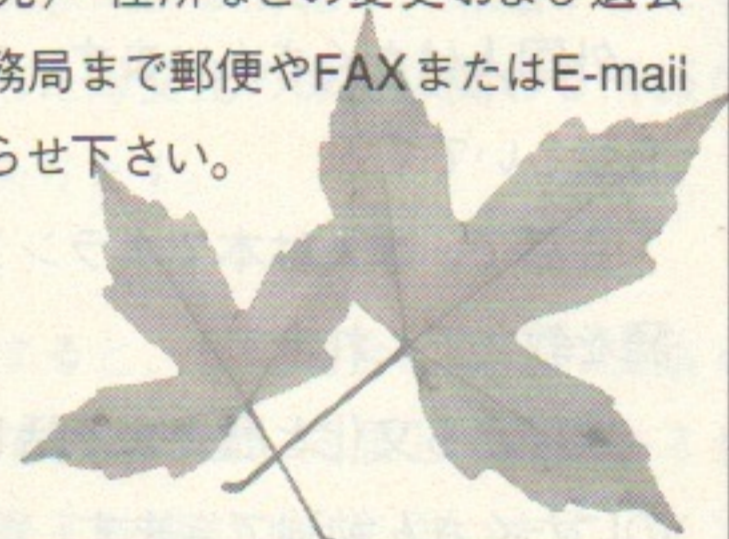
郵便振替口座番号00100-1-719259

口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク
(通信欄に「年会費」と記入)

●連絡先の変更等は、郵便かFAXで

団体の代表・連絡先(TNVNからの郵便物の宛先)・住所などの変更および退会は、事務局まで郵便やFAXまたはE-mailでお知らせ下さい。



日本語支援事情

東京は広い。TNVNを通じ様々な地域の方と接していると、あらためてこのことを実感する。日本語ボランティア教室に関わっている者同士とはいえ、他の方のお話を伺っていると、教室の現状やそれに付随する悩みが正反対であることも多いからだ。

たとえば学習者不足という話。ボランティア不足で年中喘いでいる私たちの教室では、(それはよくないことだと思いつつも)学習者の集まりが悪いことにホッとしてしまう日すらある。挨拶さえおぼつかない学習者から検定1級を目指す学習者までを、一気に一人で見なければならぬこともあるが

いだからだ。事実、私も左記のようにてんばらばらな学習者十数名を一度にみたことがある(かなりハードだった)。ボランティア不足で悩むことはしょっちゅうだが、学習者不足で悩むことは今後ますますないだろう。

また、学習者が違えばそのニーズも違ってくる。私たちの教室は中小企業の多い下町にある、夜のクラスだ。学習者の大半は独身の労働者で、文字学習に意味を見いだせず長いこと拒否し続けていた人もいた。「オレたちに『お国はどちらですか?』と聞く人はいない。『国どこ?』これだけだ」。何年も日本語を勉強した後、そう訴えてきた人もいる。

東京は広い。一口にTNVN団体会員と言っても、根ざす地域によって、状況や悩み、取り組み方や考え方は千差万別なのだろう。

(e.u.)

SPECIAL THANKS

★松下達彦先生(桜美林大)
快く執筆いただきました。

新入会員のご紹介

★協力委員:中川康弘・香月友絵
★賛助会員:株式会社アスク

*2002年10月15日現在の会員数:
正会員 62団体、協力会員 95名、
賛助会員 4団体



●編集/岡田美奈子、大久保澄子、
梶村勝利、木村茂、床呂英一、
林川玲子、山本敬子、上野悦子

●レイアウト/鶴田環恵